

N-3:参加者ネットワーキングセッション

開催日時 9月20日(木曜日) 9:00-10:30 406(4階)

URAのブランディングを見据えた戦略的活動アーカイブ

日本にURAが誕生して5年以上がたち活動や役割の幅が大きく広がっている。それに伴いURA数の増加や組織の複雑化が進み、大学内のURA間での情報共有の重要性が増している。これまで研究者情報の蓄積・活用の議論は多くされてきたが、URAが日本の研究力強化の基盤的役割を担う存在として定着するためには、URA自身が日々生み出す活動やそこで得る情報を有効に蓄積・共有・活用することが重要な観点となる。本セッションでは、京都大学、九州大学、東京農工大学の事例紹介と、「何をアーカイブするか」、「どこまで共有するか」、「どのように活用するか」をテーマにグループディスカッションを行い、研究力強化に資するURA活動を行う上でのURAの戦略的活動アーカイブについて議論する。

オーガナイザー

大西 将徳 : 京都大学 学術研究支援室 URA



京都大学大学院人間・環境学研究科修了、博士(人間・環境学)。日本科学未来館科学コミュニケーター、神戸大学大学院理学研究科 学術研究員等を経て、2017年3月より京都大学学術研究室 URA。京都大学桂地区担当 URA として工学研究科の研究者のプレアワードから産学連携等の研究力強化に資する活動を展開する傍ら、URA活動のアーカイブ化、CREST・さがりけ等のトップダウン型競争的資金獲得に関するURA活動の基盤整備等を推し進めている。

岡崎 麻紀子 : 京都大学 学術研究支援室 URA



九州大学生物資源環境科学府修了し博士号(農学)を取得。鳥取大学乾燥地研究センター、九州大学農学部附属演習林、京都大学農学研究科、日本学術振興会特別研究員(PD)を経て2017年11月より現職。森を「ハカル」研究をしていたが、現在はKURA企画・広報グループにて学内ファンド運営や研究力を「ハカル」IR業務等に従事。

田上 款 : 京都大学 学術研究支援室 URA



北海道大学大学院理学研究科化学専攻修了、博士(理学)。米国・国立衛生研究所・Visiting Fellowを経て、2013年3月より京都大学宇治地区担当URAに着任。2018年4月からは桂地区担当URAを兼任し、広範な京大理工系研究者と伴走しながら研究力の強化を目指す。研究者とURAの“顔の見える関係”をどのように記録していくかに興味を持ち、UAR活動のアーカイブ化に取り組む。